Ecology of Mankind 研究会（オ2回）記録.

1959.3.17(火)
1:30 ～ 5:00 (人文・分館・会ぎ室)

① 出席者： IMANISI, UEYAMA, MAKI, HUZIOKA, KAWAKITA, UMESAO, IWATA, ISIDA, IIZIMA, TANI, WAZAKI (記録).

② 会の内容： 1. メンバーの招介　2. オ1回の報告　3. 内容の討議　4. 運営上のこと.

▷ 今後の会運営について.
1. 討議内容はなるべくくわしく（出来れば発言者もわかる事）まとめて，プリントし次回に手渡す.
2. 記録・運営の担当は 上山・和崎でやる.
3. 会合は「火旺」が研究所の都合で優先するが，まだきまらない.
4. 週一回でないと能率が上らないが，所外メンバーの都合もあり無理だろう.

記録メモ — 当日の録音テープより次のようにまとめました.
内容は ① 今西原案のたてまえ（分類から入るということ）について，
② Ecology の立場（「生体」は「生きているもの」という原則）について，及び
③ 予測される問題
にわけられる.
以下この順に記録する.

Ⅰ

今西原案でいう「体系的思考」は，形式的に強い反対があった（UMESAO）が，「項目よりまず内容を考える」という事も，「体系」の説明・討議が進み，Ecology の立場が確認され，実際予測される「問題」まで話題がひろげられた事により，結果として解消されたと思う．即ち

分類学が正確でなければその後の一切の記述が不可能な事
内容から入らなければ，その分類は実際的でない事
} を両立させてやってゆく.

Ⅱ

今西福想の内容は，要するにあらゆる場面で ecology の立場をつらぬく，という点の説明であり，又それに対するギモンであり，提案であった．以下，オ2回研究会で出来上った Ecology of Mankind の大要をまとめる.

Ecology of Mankind.

メモ

▷ Cultural Anthr. の分担する部分.

Part I. Community Study — community study における community は，ecology における「主体環境系」の「主体」であること.
従って「主体」は「生きもの」である.
即ち，基本的には Sociology があつかってきた面を（Macro な世界を）ecological にあつかう.

Ia. 「主体」としてとりあげられるものは何か？ ＝ 人類社会分類学
「サルのムレ」から「国家」までの系列で人類社会を分類することの意味は，「主体性」の系列 であり「自活単位」の系列」である.
▷ 主体 → 自活単位 → 自己完結性 → メモ①
▷ 主体 → 社会 → culture → メモ②

Ib 分類された「人類社会＝主体」の分布 ＝ 人類社会分布論
ecology における「環境」をあつかう.
(auto ecology, population 論はこゝで.)

Ic. 分類された「人類社会＝主体」の系統・分類 ＝ 人類社会系統学

▷ ムレから国家へという integrity の level の高まりにのらない現象（＝例 文明化現象） → メモ③

Kyoto University

Ecology of Mankind :(2)

Ⅱ のつづき：

—メモ—

▷ 上山・牧 の分担.

▷ 家族について (Pt Iでも)
▷ ウメサオ Theory
▷ 家庭の文明史.

Part Ⅱ.（見出しの適当な名前はないが）「主体」を内側からみる.

これまでは Psyclogy があつかった面であるが、Part I の分類の予想の下に ego と super-ego をとりあげ、skill と social-norm のつながりを考える.

「主体」の構成要素である人間の内部構造と、その energy ともいうべきものが問題になる.（内部構造の要素は ego と super-ego）.

人間の evolution が入る.

Culture は？ —— 「生きもの」の道具としてのみ意味をもつ。即ち ecology では「社会は culture に先行する」原理の上に立つ事が第一で、culture を孤立させず、生活単位にあわせてみてゆく.

▷ 社会はなぜ culture でないことがあるか？(IWATA) →メモ④
▷ 主体とは 社会＋culture と考えてよいか？(IWATA) →メモ⑤

Ⅲのメモ ①「主体性 — 自活単位 — 自己完結性」に関するメモ（補足として）

- ムレから国家までを分類する原理は「自活単位」の考えである.（IMANISI）
- それは 自己完結的であるか、ないかによつて「主体性」のある・なしをわける.（UMESAO）
- その点 Sociology ではある程度やっており（基礎社会と特能社会とに分けて）、主として特能社会にかたよっている.（UEYAMA）
- 自己完結性で人類社会の level の発展をおさえる.（各人）
  例：ゴリラの社会.
  署利国家に対する游牧民の影響.
  封建国家や軍事国家の位置づけ
  明治維新の理解.
  Nationalism の説明.
  Marxism の立場.
- 自己完結性をいいすぎるとまずい. 例えば 家族は Incest Taboo により本質的に自己完結性がない. だから自活単位という.（IMANISI）

② 「主体」は「社会＋Culture」か？（IWATA）

- （IMANISI 答）重ねて指摘するが、ecology の立場では「集団」そのものを「生きもの」としてとりあげ、「生きもの」ならばどう反応するか、が問題の中心となる.
  だから、その反応のしかたの中に、culture は「生きもの」が生きてゆく為の道具という意味で、当然入ってくると考える.
  又適応か心要かわからないが、「人類社会」の evolution と共に「culture」のそれが結びつけられる.

③ 「文明化現象」はどう位置づけるか？（UMESAO）

- （IMANISI）. Part I でつくった 人類社会 の各 level は「ムレから国家」という integrity の段階によるものだが、そこにわれわれは biological な原則を立てている. 文明化現象は明らかに、このような段階をふまない level の高まりと考えられ、そこに biological な原則からのはづれ＝即ち、これからの人類社会のいと口があると考えておきたい.

④ 「社会」＝「Culture」ではないか？ —— 人間の Invention の最たるものである organization ＝ 社会 は どうして Culture でない事があるか（IWATA）.

- （IMANISI） これはこれから根本的検討がなされると思うが、今度はあくまで ecology の立場であり、biological なものを社会の根底に考える立場をとる. だから今後はそのときどきに「より cultural なもの」をよりわけるといった態度でのぞめばよいだろう.
- （UMESAO） いつそのこと、invention 自体が biological なものと考え、
  社会 —— より根源的 Invention であり
  文化 —— より新しい Invention である
  としたらどうだろう.

Kyoto University

Ecology of Mankind : (3)

III 予測される問題 — これは今回の会合で出たいくつかを列記するに止める。

① 文明化現象 —— メモ③ 参照.
これは、人類社会生態学の応用問題である.

② 国家 level で climax があるか? (UEYAMA)

③ 自由国家と共産国家の比較 (IMANISI, UMESAO)

④ Culture と State との一致性の問題 (KAWAKITA)

以上. 1959. 3. 17 の記録よりメモ
担当 和崎

Kyoto University